

I 日 時 令和2年8月28日（金） 14時00分～16時00分

II 場 所 オンライン会議

III 出席者 出席者名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

市長 今般、新型コロナウイルスの感染拡大を契機とし、テレワークやオンラインの活用等、「ニューノーマル」の社会への対応が求められている。本市においては、今年3月「ちばしチェンジ宣言」を発出し、多方面で施策の見直しを進めている。各大学も、これまでにない状況の中、大変な苦労と様々な工夫を凝らしてきたと思う。各大学が持つ知見もいただきながら更なる取り組みを進めていきたい。

3 出席者紹介

4 議題 アフターコロナ時代におけるひとつづくり

(1) 市長発表 資料「アフターコロナ時代におけるひとつづくりについて」に基づき説明

(2) 学長発表（各大学資料に基づき説明）

植草学園大学・同短期大学

- ・ これからはデジタルシフトが起き、いつでもどこでも自分の都合に合わせて学べる社会が必要になってくる。例えば学校教育、医療現場におけるデジタル化、ロボットの活用等が行われている。特別支援教育ではタブレット等を用いた支援等も行っている。そのような授業の方向性をさらに強く進めていく必要があると思っている。
- ・ 同時に、エッセンシャルワーカーの場ではリアルな人間関係の対応は欠かせない、特に患者や子どもに直接接触れる実習が不可欠である。
- ・ 学校教育の中で遠隔授業を行ってきた中、家庭の格差が随分大きいと考えている。短大では、千葉市の「どこでもこどもカフェ」等、子どもの居場所事業と連携しており、学校でもなく家庭でもない場で子どもを支援する必要があると考えている。

市長 大変参考になる取り組みをご紹介いただき感謝申し上げます。

神田外語大学

- ・ 「Innovation KUIS 2020」のスローガンのもと、教員、職員、学生すべての関係者が知恵を出し合い、一人一人が真剣に学ぶ当事者意識を持ち、オンライン化が目的化しないように、質の高い学習環境の整備を行っていきたい。
- ・ コロナ禍をチャンスと捉え、どこでもいつでも好きなように学習が可能になると捉え、学ぶ面白さを体験し、面白いものを自分で追及する。画一教育から個別指導へ転換するチャンスと考えている。
- ・ 来年から新しい学びを取り入れた新学部グローバルリベラルアーツ学部をスタートする。これから、ますます予測不可能な時代になると思われ、今までの常識では通用しない、解のない世界で生きていく若者たちには、主体的に物事を考える力が不可欠。物事を鵜呑みにせず、疑って考える習慣（クリティカルシンキング）

グ) が非常に大事だと考えている。

- ・ 本学の建学の理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を具現化して、どんな環境であっても多様な人々と共生する、ニューノーマルを作り上げる人材を育てていきたい。

市長

それぞれの新しいイノベーションをどのように考えているかという点も含めて、ご紹介いただき感謝申し上げます。

敬愛大学

- ・ 本学では10年以上にわたって生涯学習講座を、学内あるいは駅近くの教室を使い展開している。今後は市民の学びの場を提供するという点から、地域のニーズに応じたりカレント教育にも取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 人材育成に関して、日本社会におけるデジタル化の遅れについては長い目で見れば、良いきっかけになり得ると考えている。
- ・ 学校教育においても、GIGAスクール構想の実現が早期に待たれるところであるが、通信環境等ハード面の整備のほか、教員のスキルアップも必要不可欠になると思っている。
- ・ 本学では、小学校を中心とした教員養成をやっているが、ICTを活用した教育をすぐ現場で実践できるような、そのような人材を育てていくということが学校として真っ先に取り組むべきことと考え、これに力を入れていきたい。
- ・ 市民の学びの場として設置している生涯学習センターの家賃補助についても市としてご一考願いたい。

市長

稲毛駅前等で実施していただいている生涯学習講座についても対面での実施が難しいところもあるかと思う。引き続き千葉市のひとつづくりにご協力いただければと思う。家賃補助に関するご意見についてももしっかり受け止めさせていただく。

淑徳大学

- ・ オンライン授業の質について、対面授業と同等程度の質を維持していると自負しているが、学生同士の人間関係、繋がり構築がオンラインだけではなかなか難しい。学生の孤立化の課題として対応を進めていく予定である。
- ・ アフターコロナ時代の学びについて、今回のオンラインによる遠隔授業、Society5.0におけるIoT技術、ICTを活用した教育を拡充する機会であると考えている。職業人がライフスタイルに合わせた形で学ぶことができる環境によるリカレント教育プログラムの開発を進めるよう指示を出したところである。
- ・ 一方、このような時代であるからこそ、地域コミュニティの価値や役割が問い直され再定義されていくものと考えている。私どもの強みは地域との連携、社会連携であると考えている。JR東日本と、シニア世代が地域社会の中で活躍するための機会創出に関する研究を進めており、今年度その実証実験を千葉市で行いたいと考えている。この点、千葉市役所からのご協力をいただきたい。

市長

地域コミュニティの部分は特に大事に感じている。改めてこのような時代だからこそ、新しい取り組みを皆様方と一緒に進めていきたいと思う。

千葉大学

- ・ 今後の取り組みとアフターコロナ時代の学びについて、これまでの対面型授業中心の形態に戻すことは考えていない。今回の経験を生かして、対面型授業とメ

ィア授業を融合したハイブリット型授業に移行するつもりである。

- ・ そのため、教室の構造が対面型授業を目的に作られているため、キャンパスの再構築を模索し始めたところである。今後、多様な形態の授業を取りそろえて、学生が自分の能力ごとに応じた授業を選択できるようにすることを考えている。このような取り組みはまたリカレント教育にも応用していけると考えている。
- ・ アフターコロナ時代における大学の役割について、今回のコロナ感染症がどのような状況になろうとも本学の役割は変わらないと思っている。国際社会で活躍できる次世代型人材育成とともに、地域社会の発展に貢献していくために、学生と教職員が一丸となって難局に向かって取り組んでいる。

市長

キャンパスの再構築等に関しては、我々学校を預かる側にとっても考えていかなければいけない、ぜひまたいろいろ教えていただきたい。

千葉経済大学・同短期大学部

- ・ 「アフターコロナ」はテーマとして早すぎる。「ミッドコロナ」の時代である。
- ・ 遠隔授業には、限界があると思う。教室で教師と学生、幼稚園、保育所、小学校、中学校、同じ空間にいて皆でぶつかり合って、その中で知性を磨いていく空間でなければならない。
- ・ 文科省でも、通学制の大学では、60単位までは遠隔の方法で良いと示された。コロナが収まれば、基本的には教室で学ぶということになり、その学びの中にICTをはじめ、様々な要素を取り入れていく。遠隔でできないものは教室で行うが、遠隔でできるものはオンラインでよいという流れが作られることは非常に憂えざるを得ないと思っている。
- ・ ミッドコロナの時代で、「密閉・密集・密接」の三密（を避けること）が大事であることに変わりないが、教育においては、別の三密「親密・緻密・濃密」の空間の中で人間を育てていくことが大事だと考える。オンラインでは緻密は生かされると思う。しかし親密性はないと思う。それから濃密も薄いと思う。その「親密・緻密・濃密」を実現することが、私たちの使命だと思い取り組んでいきたい。

市長

コロナ禍でも、対面、人と人が相互に同じ場にいることによって影響を与えることの重要性をおっしゃっていただいた。幼児教育等の非認知能力の部分でも非常に重要な要素だと思う。今まで授業の中で、人と人が信頼し刺激をし合うという行為と、知識を習得するというこの行為が一体となっていたが、恐らく因数分解され、それぞれに最適な方法をこれから模索していくのかと思う。

対面でしかできないことがたくさんあることも、今回分かってきたと思うので、この二つの要素を、大学・大学生だからできることと、小・中学生ではできないものがあると思うので、対面、オンラインそれぞれの課題とやり方について深めていきたいと思う。

千葉県立保健医療大学

- ・ アフターコロナ時代には少子高齢に加えて社会の分断・差別化がさらに進行する。そのような時代に求められる保健医療専門職の役割は患者・利用者の身体・精神的課題の解決ばかりでなく、ソーシャル・キャピタルの醸成（信頼、ネット

ワーク、互酬性の構築)を通じた社会への貢献である。

- ・ 本学のディプロマ・ポリシーとしてソーシャル・キャピタルの醸成に貢献できる能力(コンピテンシー)を設定した。患者・利用者をエンパワメントすることで彼ら・彼女らの自助・互助・共助力を高めて地域社会を活性化し、保健医療を効率的に実践できる人材育成を目的とするコンピテンシー基盤型教育を導入した。

市長

県立保健医療大学でお育ていただいている人材はまさにエッセンシャルワーカーであるので、今後とも千葉市・千葉県に必要な人材をお育ていただければと思う。

東京情報大学

- ・ オンライン授業を通して、多くの可能性が見えてきた。だが、一方で対面の中で学ぶ重要性も認識しており、対面授業ができないことが課題と認識している。
- ・ 将来的にはリカレント教育についても力を入れていきたい。本学は千葉市と連携し、3月から公開講座を開いている。これについても、このICT技術と人間を結びつけるような関連講座の開設を考えている。
- ・ デジタルデバイドについて懸念をしている。日本では、一般的にスマホ等電子機器が普及しているが、コロナ禍の状況になり高齢者を中心に、上手く使いこなしていけない部分があると感じている。千葉市においても、いろんな手続きがウェブ上で可能であるが、高齢者等不慣れな方にも上手くフォローしてもらいたいと思っている。

市長

ICTの可能性と課題については行政にも関連することがあると思う。ICTを活用できる方にはより活用していただき、行政と市民の生産性を向上させていきたいが、決してデジタルデバイドを無視してはいけないと思っている。

オンラインでのメリットを高齢者の皆さんにも感じていただいて、体験する流れを作ることが一番理想だと思っている。

放送大学

- ・ 2020年第1学期については、面接授業を登録された学生に対し、WEB会議システムを活用したリモート授業の提供に加え、学生が簡易に扱える動画配信サービスによる代替科目措置(URLをクリックさえすれば見られるサービス)や郵便も組み合わせて救済を試みた。
- ・ 通常、放送授業については開講までに3年かかるが、今回1科目だけを特別救済に向けて、様々な領域の専任教員にお集まりいただき、「危機の時代に考える」というテーマで、新型コロナウイルスを中心とする様々な危機に人間がどう立ち向かうべきか、という講義を制作した。これは現在、本学のホームページから学外でも閲覧可能、YouTubeでも公開しており、皆さんにご覧いただきたい。
- ・ アフターコロナの一番の狙いとしては、本学が生涯学習にどのような形で貢献し得るかということである。生涯学習の履歴蓄積をどのように行うか、今年度からデジタルバッジを上手く活用し、生涯学習履歴を蓄積する「インターネット配信公開講座(AOBA)」というシステムを提供している。今年度、政府からの要請も受けて、データサイエンスの様々な学修コンテンツを制作している。プラットフォームに加盟されている一部大学とは、今後どのように活用いただけるか検討を進めていきたい。文系大学にもご利用いただけるよう、多様な内容をもったコンテンツづくりを考えている。

市長 従来から放送授業を取り組まれている大学ならではの話を、ご紹介いただき感謝申し上げます。

- 千葉明德短期大学
- ・ 本学は「体験から学ぶ」ということを打ち出しており、基本を変更するつもりはない。机上の理屈・議論・知識だけで難しい部分もあると思っている。人間形成の基本は、幼児教育に影響が出てくることと思う。そのような中、将来携わる学生たちには、自らの人間形成を体験しながら、短大の時期に形成して欲しい、と思っている。基本は対面学習、あるいは実習、その総括は大事になってくると思っている。
 - ・ 本学も後期からはオンライン授業も一部取り入れるという形で、今準備している。その中で学生一人一人へのケアというのを、どう構築していくのかという点が、大きな課題だと認識し、全教員取り組んでいる。

市長 究極の対面学習、実習のベースにあるものの一つが、保育士養成であると思っている。引き続き、課題について協議をさせていただきたい。

- 帝京平成大学
- ・ オンラインによる座学講義の環境が整い始める一方、実習と演習に関して対面授業の難しさが問題となってきた。そこで5月27日に感染症対策ガイドラインを学生に対して公表した。
 - ・ これによりある程度、演習・実習の体制が整い授業を行えるようになったが、オンライン授業を展開するにあたりどの程度学生が理解しているかという点が問題と感じている。
 - ・ 実習・演習がなかなか難しいため、外部講師によってオンラインでそのような授業も行ったが、自分たちの「手で実感する」ことが大事と考え、後期からはできるだけ対面で授業を行う予定である。

市長 どのような形で学生にオンライン授業を聞いてもらうかという悩みも含めて、共有いただき感謝申し上げます。

- 千葉工業大学
- ・ 本学では2013年に教職員を含む全学生にタブレット端末を貸与することを始めていた。そのため、今回そのコロナ禍でオンライン授業を実施するとなった際、学生は端末にて最低限視聴できる環境であった。
 - ・ 2014年、本学はサイバー大学と単位互換協定を結び、教員が自分でオンライン講義を作成できるツール、クラウドキャンパスを導入して教員が自前でオンライン講義を作れる環境を整備した。
 - ・ そのうえで、2018年、オンライン授業のガイドラインを作成して、教務委員会の中で判断して認めたものに関しては、週の何回かはオンラインを取り入れていいという制度を実施している。それを使っている教員が徐々に増えてきた中教育制度大改革を行い、休み時間の間に学生がキャンパス間を移動できるような時間が取れないということで、遠隔講義システムというものを導入していた。
 - ・ これらを踏まえて、今年から徐々にこのオンラインを制度化したものを踏まえて改革を推進してきた。この新型コロナウイルスの影響で、いきなり実践投入せざるをえない状況に追い込まれたというのが、本学の実情である。

- ・ 4月以降、ウェブエックスのオンライン会議のミニ講習会を毎日開催し、それから教員向けに新型コロナウイルス対応のための授業運営ガイドラインを制定し、5月からオンライン、それから6月22日から対面形式の授業の形で授業を行っている。
- ・ 本学の教育改革の中で、専任教員とは大分意識共有ができて将来のビジョンというものを共通認識を持っていたが、非常勤の教員との教育の格差が非常に問題になっており、これを今後の課題と考えている。
- ・ 将来的にはそのオンラインコンテンツを使って、より質の高い教育を提供していきたい。

市長

大変参考になる取り組みをご紹介いただき感謝申し上げます。

4 議題 アフターコロナ時代におけるひとづくり

(3) 意見交換

市長

- ・ 一つ目はフィールドワークについてである。今まで学生と地域とが関わり合いを持ちフィールドワークが実践されてきたが、このコロナ禍により実践できないところも多いと思っている。そうした実践の場を通しての学びが一つ課題だと認識している。そのような観点で、我々「まち」として変わっていかねばいけないところや対応してほしいこと等があれば教えていただきたい。
- ・ もう一つがリカレント教育についてである。人生100年時代の中で、学び直しが求められてきた中、今回それぞれの大学の皆様方がオンライン授業による多くのコンテンツ作成に携わっている。この流れの中で市民が、皆様方の学びを受けることができる機会・環境が増えつつあると思う。そのあたりも含めてぜひ皆様方から、ご意見等を伺えればと思う。

淑徳大学

- ・ フィールドワーク等に関して、あるいは地域との問題に関わることで、リモートワークが拡大し、就労世代の方々が、もしかしたら地域コミュニティの活動に参画しやすくなっている、あるいはそのような時間や機会が増えるような、客観的な情勢にあるのかと思う。
- ・ ここで大切なのは就労世代の方々が地域コミュニティの中にどのように入ってきていただくかということであろうかと考える。
- ・ 例えば、新たに千葉市に移り住まわれた方々、つまり、従前の地域社会との接点がなかった方々を、どう地域社会に迎えられるかだと思っている。
- ・ そのような課題がこのコロナ禍により一つ見えてきたのではないかと思う。本学では、就労世代のリカレント教育はもちろん、地域と就労世代の方々とをつなぐ取り組みを進めて参りたい。

市長

参考になるご意見をいただき感謝申し上げます。

千葉大学

- ・ メディア事業についての特色・利点深く掘り下げて考えているが、今後リカレント教育を普及させる一つの手だてにしていこうと考えている。
- ・ 私どもから提案したいことは、これからハイブリッド型で、メディアで済ませる

ところはメディアで済まし、対面で行うべきところは対面で行う形である。リカレント教育も、時間を設定して授業を行うようでは、なかなか働いている方々は参加することができない。

- ・ 自分の時間で自由に勉強するパターンと、事前に時間帯枠を設けて勉強するパターンとを、区別して設定すると、かなりリカレント教育が普及しやすい環境になると思うし、リカレント教育を受講希望する方も増えてくると思う。それによって大学の知が、市にどんどん広がっていくのかと考えている。

市長

参考になるご意見をいただき感謝申し上げます。

神田外語大学

- ・ 日本ではICT教育が非常に遅れているが、いくらハードウェアが充実するようになったとしても、教えるスキルが充実しなければいけないと考える。
- ・ そこで市長にお願いしたいのは、企業のOB（例えば技術者、またコンピューター関係）を積極的に活用していただき、特に初等中等教育等のICT教育の支援をする、またこれは千葉工大等々の工学系大学の学生、大学院生の知見を活用し、この困難を乗り越えるような体制をつくっていただきたい。多様な企業が集まる千葉市は他よりもアドバンスになるのではないかと考えている。
- ・ 我々GIGAスクール構想を進めていく中の一つの課題、各学校におけるICTを支援する人材の確保。学校数を考えると何百人という専門人材が必要になる。

市長

もちろん市としても教員にそのようなスキルを身につけさせていくわけであるが、それぞれの大学の学生の皆様方がある種の実践の場でもあるので、そういった形で人材のご助力はしっかりお願いをしていきたいと思っている。

市長

続いて、アフターコロナで到来するオンライン時代との向き合い方と、アフターコロナの働き方と地域活性化を支える人材育成、この2点について残り時間で意見交換をさせていただきたい。

千葉大学

- ・ このオンライン時代に私どもが提案しなかったことは、こちら側がカリキュラムを作ってすべて学生に与えている感覚であったが、ハイブリッド型にして学生サイドで選べるようにすることである。
- ・ しかし、今はオンラインで必修単位が取るができるようにする、例えば学生がアルバイトをしている時間帯に授業を受けられないのであれば、オンラインでできるようにする。学生にチョイスができるような形に教育を変えていくことが基本ではないかと思う。

市長

オンデマンドを活用して選ぶことは重要なテーマであり、市職員の研修も変えていかなければいけないと思っている。例えば、業務中研修のための時間として1時間程度オンラインコンテンツで学ぶことも今後の課題と認識している。場所と時間を問わない学びのスタイルを我々としても意識をしていきたい。

植草学園大学・同短期大学

- ・ エssenシャルワーカーについて対人的な要素が基本ではあるが、今後ロボティクスやコンピューターでの支援ができる教育が入り込んでくると考える。
- ・ そのような事業をサポートできるような人材を見つけることはとても難しい。そ

のようなサポート人材の確保が課題と考えている。

- ・ この間の免許の更新講習の授業を行った際、現場の先生方にその時に新しいこれからの人材養成とは、問題解決を自分で問題を見つけて解決していくことだとの話を先生方と意見交換した。ただ、どうしても学校教育の中では今まで一つの答えを見つけることに固執してきたわけだが、今のコロナ対策を考えているときに、何が正解かが分からないのが実態である。
- ・ 試行錯誤しながら大学も行っており、これを機にみんなで解決を考えながら進めていくという意識ができたことは大事な機会であったと思う。

市長

これから求められる人材育成には、コンサルティングし、サポートする人材が必要だとも考えており、教育においてはそのような人材育成のカリキュラムが求められていると思っている。

千葉経済大学・同短期大学部

- ・ 現在、大学全入時代であるということを前提に申し上げたい。8割方、高校を卒業した学生が大学・短期大学関係に入学している。千葉大学あるいは神田外語大学等々にはもっと上の方の人たちをどう育てるかという点で、ぜひ世界的な研究をして、そのような人材を育てていただきたいと思う。また、大学へ進学した学生には普遍的に社会に出て活躍してもらいたいと思う。
- ・ エssenシャルワーカーを希望する学生に社会人の基礎として何を養成するべきなのか、あるいは人間力を高めるため、どのように育てるのか。単なるICTを活用した教育のみでは難しい部分があると思う。

市長

高校教育はまさにボトムアップが大事だと考えている。このボトムアップの部分は、最終的な社会のあり方に関わってくるため、社会を支える多くの人たちに何を学んでもらうかという点は大変重要だと思っている。

特に小学校・中学校の教育過程で学ぶものが大学との連携の中で変わるのであれば、私たちも初等教育・中等教育の中身も変化させていかなければいけないと思っている。保育所・幼稚園が重視してたようなことを、小学校・中学校でもウエイトを増やした方がよいかと思う点については、しっかり受け止めさせていただきたいと思う。